

# 熊本大学医学部附属病院 発達小児科 専門修練プログラム

## 1. プログラムの概略・特徴

### 【概要】

前期研修を終了し一般小児科医を目指す医師、および専門領域を目指す医師のための研修プログラムである。1年目は、主に熊本大学医学部附属病院発達小児科で、基本的な小児の診断・治療の修練を行う。新生児学研修は、熊本市民病院NICUで行う。一般小児科学の診療に関しては、一部は、鹿児島市立病院小児科、球磨郡公立多良木病院小児科、公立玉名中央病院小児科にて必要に応じて行う。小児神経学の研修の一部は、北九州市立総合療育センター、熊本県立こども総合療育センターで行い、臨床経験を増やす。本人の意志と実力に応じて、大学院や留学も可能である。

### 【特徴】

発達小児科は、小児の神経筋疾患、発達障害、睡眠リズム障害、慢性疲労症候群（不登校）、心身症、PTSD、内分泌疾患、摂食障害を中心に診療を行っている。小児神経学は、小児科の数ある分野の中でも最も患者数が多い分野である。小児の筋疾患については、九州内の様々な医療施設より筋生検の依頼があり、筋病理の研修も可能である。

## 2. 研修の目標

### 【一般目標】

およそ2年間の一般小児科研修修了に加え、一般小児科診療の診断と治療を独立して行う技量を身につけ、患者及び患者家族の信頼を得ることを目標とする。また小児科専門医を取得する。その後は、小児神経、小児心身症、小児内分泌等の専門分野において、診断と治療が独立して行える様にし、各専門分野の専門医を目指す。

### 【行動目標】

#### <小児科学>

一般小児科疾患としては、小児の発達、感染性疾患（麻疹、水痘等のウイルス性疾患、溶連菌感染症等の細菌感染症）、小児救急疾患（異物誤飲、誤嚥、腸重積症、中毒等）、新生児疾患とその管理を経験する。

#### <小児神経学>

対象となる疾患としては、筋疾患、てんかん、脳炎・脳症、先天奇形症候群、発達障害（自閉症、広汎性発達障害、注意欠陥多動性障害、精神発達障害、言語発達障害など）、小児慢性疲労症候群（不登校）、睡眠リズム障害等があり、軽度から難治なものまで、診断と治療を実施する。また、在宅人工呼吸療法患者は、小児科開業医や訪問看護ステーションと連携してケアを行えるようになる。筋生検による筋組織学については、当教室は長年にわたる研究実績を持っており、九州内の様々な医療施設より依頼を受け、組織診断を行っている。

大学院では、筋疾患で中心的な研究対象はDuchenne型筋ジストロフィーであり、単に臨床的なフォローを行うだけではなく、病態の解明と治療の開発を含めた先端的医療を行っている。また小児心身症については、脳機能画像解析を含め様々なアプローチを行っている。

#### <小児内分泌学>

内分泌疾患は、主に成長に関するものが多く、中には一生にわたってホルモン補充療法を行っていく必要のある疾患もある。発達小児科でフォローしている患者は、低身長を主訴とする患者が年間約150例、成長ホルモン分泌障害が、治療継続している患者を含め約100例、それ以外の成長障害が200例、糖尿病20例、尿崩症10例、染色体異常症や先天異常が50例、骨系統疾患30例、神経性食思不振症100例、肥満

50例、性腺機能不全症30例、その他甲状腺疾患等である。

### 3. 研修スケジュール

卒後3年目～およそ10年目。本人の希望と実力によって、個々に対応する。

	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目	10年目
A	大学病院	関連施設	大学病院			留 学		
B	大学病院	関連施設		大学病院		関連施設		
C	大学病院	大 学 院				関連施設		
D	大学病院	関連施設	大学院			留 学		
E	大学病院			関連施設		大学病院		

### 4. 研修の評価

専門医になるための臨床経験と臨床研究を半年毎に評価する。評価はグループ長が行い、評価方法はそれぞれの学会が規定した専門医評価法を採用する。これらの評価を教授に提示し、最終評価を受ける。半年毎の評価で不足するものは、次の半年で経験を積むべく専門修練医自身とグループ長が責任を持って臨床研修プログラムを組み直すこととする。

### 5. 募集人員

制限なし。

### 6. 研修実施責任者

施 設 名	指導責任者
熊本大学医学部附属病院発達小児科（小児科専門医研修施設）	間部 裕代 助教
鹿児島市立病院小児科（小児科専門医研修支援施設）	川上 清 部長
熊本市民病院NICU（小児科専門医研修支援施設）	近藤 裕一 部長
球磨郡公立多良木病院小児科（指定研修関連施設）	師井 敏裕 部長
北九州市立総合療育センター小児科（指定研修関連施設）	河野 義恭 部長
公立玉名中央病院小児科（指定研修関連施設）	米峰 かず子 医長
熊本県立こども総合療育センター小児科（指定研修関連施設）	甲斐 由美子 部長

### 7. 研修指導責任者

熊本大学医学部附属病院発達小児科 木村 重美 科長代理

### 8. 関連施設及び当該施設の学会認定状況

関連施設は「6」に示す。

当科あるいは日本小児科学会研修指定病院小児科で3年間研修すると、日本小児科学会専門医の受験資格を取得できる。また、5年間の研修で日本小児神経学会専門医、日本内分泌学会専門医の受験資格を取得できる。

### 9. その他

小児の筋疾患（筋ジストロフィー）に興味がある者は、ピッツバーグこども病院に留学可能である。出産・育児や介護等への対応も可能である。

### 10. 連絡先

熊本大学医学部附属病院発達小児科 医局長 野村 恵子

電話 (096) 373-5197 (発達小児科医局)